



高山 咲嬉
Takayama Saki

第1回の森ラボマルシェの様子



高山さんの
ハンドメイド作品



高山 咲嬉さん(宮地)

森ラボマルシェ代表。
真庭市出身。夫の転勤により高知県で暮らしていたが、5年前にUターン。地元のカフェで働きながら、ハンドメイド作家としても活動し、定期的にマルシェを開催している。昨年誕生した第3子連れて、北房つどの広場「ほくぼうほたるっこ」によく通っている。

真

MANI WABITO

庭人

北房で生まれた新たな挑戦

「マルシェに行くのが好き、が始まりですね」と話すのは、令和5年に北房で『森ラボマルシェ』を立ち上げた高山咲嬉さんです。友人に連れて行ってもらったハンドメイドマルシェで、手作りの楽しさに目覚めた高山さん。自身もハンドメイド作家として活動するようになったそうです。北房に帰って来た高山さんは、マルシェに出店できるようになり、「県北には初めての人が気軽に出来るマルシェが少ない」と感じたそう。「いろんな才能のある人がいるのにもったいないと思って。知り合いの方に『マルシェがしたいんです』

と相談したら、とんとん拍子で開催場所が決まったんです。そこからママ友に声をかけて協力者を集めて、出店者さんに声をかけたり、ブースマップを作ったり大忙し。何か決めるたびにコンセプトに沿っているか悩みました」と話します。

『初めて』に寄り添い応援するマルシェに

森ラボマルシェのコンセプトは、『初めの第一歩を応援』。初めての出店者を知ってもらいたいという思いと、子どもたちに自分の好きなことを仕事にできる姿を見てほしいという思いが込められているそうです。「初めての人の挑戦を温かく見守ってもらって、自分も何かやりたいことが

あったら声をかけてください。何より一番は楽しんでほしいですね。主催者とお客さまの垣根を越え、一緒に育てていく場所にしたいです」と高山さん。今後について「他のマルシェとコラボをしたり、興味のある学生さんに関わってもらったりできたらいいなと思います。私もマルシェを通じてできたつながりや出会いを、広げていける人になれたらいいですね」と語ってくれました。

